

『看護覚え書』の序章を掲載！

続き2

病気につきものと思われている苦痛の原因は、必ずしもその病気によるものではない



3. 病気と言うものを注意して見つめているとき、それが個人の家であっても公共の病院であっても、経験豊かな観察者を強く惹きつけることがある。それは、その病気につきもので避けられないこと一般に考えられている症状

や苦痛などが、実はその病気の症状などでは決してなくて、全く別の事からくる症状——すなわち、新鮮な空気とか陽光、暖かさ、静けさ、清潔さ、食事の規則正しさと食事の世話などのうちのどれか、または全部が欠けていることから生じる症状であることが非常に多いということなのである。そしてこれは、病院看護においても家庭看護においても、全く同様によく見られることである。

4. 自然が作り出し、我々が病気と呼んでいるこの回復過程は、こういったことの1つまたは全部に対する知識の不足か、あるいは注意が足りないために妨害されてきて、その結果、痛みや苦しみや、あるいは過程そのものの中絶が起こるのである。

5. 患者が冷え込んでいるとか、熱があるとか、ぐったりしているとか、食後に吐き気があるとか、褥瘡ができるとかするのは、大抵の場合、病気のせいではなくて看護のせいなのである。

看護覚え書 序章より 引用

看護管理学会in金沢

平成28年9月27、28日の両日、石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、金沢市アートホールを会場に日本看護協会 看護管理学会in金沢に約3500人が全国より集まり開催されました。看護管理学会は、日本看護協会が主催する学術集会の中では最も権威があり、今看護に求められる最前の課題や看護の方向など情報が集まります。県内開催は初めてで、全国都道府県数から考えると今後の開催は50年後の開催となるのでしょうか？石川県看護協会は、総力を注ぎ大成功に終わりました。わが恵寿総合病院看護部では、会場係として本橋看護部長が会場係長を務めたほか前浜副部長、谷田部師長、幸田主任は、学会運営に大奮闘しました。船山真理子師長は座長を務め、3-2小谷薫師長は、査読が厳しい看護管理学会において、恵寿総合病院看護部で唯一、看護の質改善の群で『「無痛分娩」導入後の産科病棟の管理を考える』産婦、助産師の評価から、発表を行いました。北陸新幹線開通効果もあって、都市に集中していた学会が、地方でも開催されるようになってきています。今後、参加のチャンスを逃さず全国の看護の状況・諸問題を知り看護者個々の質向上、自己研鑽を行って欲しいと願います。さて、来年2017年9月9日、10日に「全日本病院学会」が同じく石川県音楽堂他を会場に開催されます。当院神野理事長が学会長です。看護管理学会同様の3000人以上の参加人数を見込んでいます。看護部は、会の運営・会の参加等大きな役割を担うことになります。看護職の総力をもって、大成功を収められるように頑張ります。



看護部Nau

備えよ常に！ Always Be Prepared — 看護部快挙！

2016年9月24日土曜日9時から12時30分にかけて、ラピア鹿島 アイリスホールにおいて第12回 董仙会 TQM発表大会が行われました。発表サークル17演題が、3つのセッションに分かれて、今年度のテーマ『備えよ常に！ Always Be Prepared』に取り組みました。看護部は、セッション1『新たな業務構築』において、テーマ「他部署への応援体制構築にむけて」中央手術室、外来、「看護必要度の取り組み」本館5階西病棟、「PNSの導入～安全で継続した看護の提供を目指して～」5病棟3階、「ずっと働き続けるために～健康的な夜勤への移行を目指して～」本館6階東・西病棟、本館5階東・西病棟、4階西病棟、5病棟4階、セッション2『新たな制度に備える』において、テーマ「退院後訪問看護確立」看護部、医療福祉相談課、医事課、セッション3『備えよ常に！』において、テーマ「血液浄化センターで最大件数の治療を行うシステムを構築する」血液浄化センター、臨床工学課・恵寿ローレルクリニックが6演題を発表しました。

看護部が、今年度強化し、看護部全体を動かす大きな活動が報告されました。それぞれの活動が、こつこつと成果をあげ、看護部全体に水平展開されていることやまた看護の可視化として、評価させるべき内容でした。残念に思ったのは、発表セッションに看護部がまとまり、甲乙つけがたい活動内容に審査をされた先生方を大いに悩ませ、唸らせたことでしょう。どの活動も看護部が前進する大きな原動力となったことは、間違いはない。結果は、セッション1で、はたらきつけ隊(堀内礼子師長発表)による「ずっと働き続けるために～健康的な夜勤への移行を目指して～」：本館6階東・西病棟、本館5階東・西病棟、4階西病棟、5病棟4階、とセッション2で、ホウモンGO(受川志津子師長発表)によるテーマ「退院後訪問看護確立」が、最優秀賞発表に選ばれました。看護部のどの発表も業務の改善につながり、今年度TQMテーマにふさわしい活動と成果発表であり、今後も看護職員は丸となって、看護の力を可視化していきましょう。看護部すべてに金メダルを贈りたいです。



座長を務め、3-2小谷薫師長は、査読が厳しい看護管理学会において、恵寿総合病院看護部で唯一、看護の質改善の群で『「無痛分娩」導入後の産科病棟の管理を考える』産婦、助産師の評価から、発表を行いました。北陸新幹線開通効果もあって、都市に集中していた学会が、地方でも開催されるようになってきています。今後、参加のチャンスを逃さず全国の看護の状況・諸問題を知り看護者個々の質向上、自己研鑽を行って欲しいと願います。さて、来年2017年9月9日、10日に「全日本病院学会」が同じく石川県音楽堂他を会場に開催されます。当院神野理事長が学会長です。看護管理学会同様の3000人以上の参加人数を見込んでいます。看護部は、会の運営・会の参加等大きな役割を担うことになります。看護職の総力をもって、大成功を収められるように頑張ります。

5病棟5階 地域包括ケア病棟を紹介します

平成26年4月の診療報酬改定で在宅支援を行う病棟として地域包括ケア病棟が新設。当院は、同年7月 地域包括ケア病棟40床で開設。8月から47床 に増床

＜地域包括ケア病棟の役割＞

院内

1. 退院調整・退院支援を行う
2. 一般病棟のベットコントロールがスムーズに行えるように後方病棟として支援
3. 一般病棟の在院日数を調整するため、後方病棟として支援
4. DPCの点数が低くなった患者を受け入れ増収につなげるなど

院外

1. レスパイト入院（在宅患者の家族支援）
2. 家族が手術など入院療養を必要とする時
3. 介護保険変更申請中・サービス調整変更時
4. 住宅改修中の入院

○×さんのADL
どこまで進んで
ますか？

ADL思ったほど進んで
いません。
日常生活リハ追加し
ます



カンファレンス風景です

今年度の取り組み

1. 昨年度から2交代勤務を導入し、今年度から11.5時間の夜勤に変更しました
2. PNS導入
3. 院内認知症ディケア開始
4. 退院後訪問看護

《カンファレンスについて》

5病棟5階では、家族や本人が、安心して自宅へ帰れるように他職種も交えて入棟時、中間・最終カンファレンスを行っています。入棟時に短期目標・長期目標を決め、中間カンファレンスで評価します

介護用ロボット「パルロ」です



もうすぐ仲間になります！！

コミュニケーションが取れる
会話ロボットです。司会をは
じめ、ゲームや体操などレク
リエーションが行えます



院内認知症ディケアの風景です

《認知症院内ディケア：オレンジの集いについて》

看護スタッフや他の患者と関わる事で、認知症の患者の、認知機能の維持・向上につながるのではないかと思います。認知症のディサービスを設立しました。

5病棟5階だけでなく他の病棟からも認知症高齢者日常生活自立度Ⅲ以上の方が来られています。レクレーションの中で一番人気は歌です（民謡や歌謡曲・童謡などその日によっていろいろです）。主に5病棟5階の看護秘書課と5病棟4階の介護福祉士が司会などを行っています。今後パルロも司会やゲームに参加します！！興味のある方は見に来てください。

看護職の処遇を考える会合を指導しました！

病院で働く看護職の賃金のあり方について、看護協会が、様々な提案を行っていることをご存知でしょうか。すでに、ご覧になった方も多くいるかと思いますが、2016.9.15の看護協会ニュースでも大きく取り上げられ、2つの具体的提案がされています。また、日本看護協会機関紙2016年9月号看護でも、看護職の賃金のあり方を特集して掲載しています。今、多様な勤務形態の推進に伴い、短時間勤務の正規職員や夜勤の負担が大きい看護職など、多様な人材の確保、活用に効果的な賃金処遇の必要性が高くなってきているからです。恵寿総合病院看護部も、ワークライフ・バランスに取り組んできましたが、処遇の見直しや改善がなしでは、進まないことが、当院でも経験済みです。夜勤労働については、得難い労働をしている夜勤者の負担に報いることから、夜勤労働への評価を現行よりも高め、手当や賞与に反映させる賃金処遇の提案をしています。日本看護協会の提案に習い、看護部では、今後、さらに2交代制の導入が進み定着していくことを見込んで、9月から働き方と賃金形態を考えて、夜勤人員確保につなげる目的で、会合を始めています。メンバーは、前浜、堀内、高野、福島、菅野、幸田、守田、真木、の8名です。恵寿総合病院で働く看護職の賃金、処遇のあり方を職員から広く意見を集めながら、看護師個々の生活スタイルや事情によって働き方が選択できそして、一人でも多く夜勤をしてくれる看護職員が増えることを願っています。また多くの夜勤負担がかかる看護職員への評価を提案していきたいと考えています。皆さま、建設的なご意見をお寄せください。

